松田　素二 教授
略歴 著作目録

松田　素二　教授
略歴

1955年4月	広島県にて出生
1979年3月	京都大学文学部卒業
1979年4月	京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻入学
1979年10月	ケニア国立ナイロビ大学大学院留学
1983年3月	京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻修了
1983年4月	京都大学大学院文学研究科博士後期課程社会学専攻進学
1984年3月	同上　中途退学
1984年4月	大阪市立大学文学部助手
1987年4月	同上　講師
1991年4月	同上　助教授
1993年4月	京都大学文学部助教授
2002年4月	京都大学大学院文学研究科教授

〈おもな学会活動〉

日本アフリカ学会（理事、評議員）、日本文化人類学会（会長・評議員）、関西社会学会（理事）、ナイルエチオピア学会（運営幹事、評議員）

〈受賞歴〉

第14回NIRA東畑精一記念賞、第28回大同生命地域研究奨励賞、第7回日本文化人類学会賞

松田　素二　教授
著 作 目 録

編・著書

1　1996年 2 月　『都市を飼い慣らす―アフリカの都市人類学』河出書房新社、290ページ
2　1997年 7 月　『新書アフリカ史』（宮本正興と共編著）講談社現代新書、596ページ
3　1998年 2 月　*URBANISATION FROM BELOW: Creativity and Soft Resistance in the Everyday life of Maragoli Migrants in Nairobi,* Kyoto University Press、355ページ
4　1999年11月　『抵抗する都市－ナイロビ 移民の世界から』岩波書店、282ページ
5　2001年 6 月　『アフリカの都市的世界』（嶋田義仁・和崎春日と共編著）世界思想社、323ページ
6　2002年 1 月　『エスノグラフィー・ガイドブック―現代世界を複眼でみる』（川田牧人と共編著）嵯峨野書院、320ページ
7　2002年 4 月　『現代アフリカの社会変動―ことばと文化の動態観察』（宮本正興と共編著）人文書院、441ページ
8　2002年 8 月　『日常的実践のエスノグラフィ―語り・コミュニティ・アイデンティティ（田邊繁治と共編著）世界思想社、372ページ
9　2003年 8 月　『観光と環境の社会学』（古川彰と共編著）新曜社、216ページ
10　2003年12月　『呪医の末裔―東アフリカ・オデニョ一族の二〇世紀』講談社、286ページ
11　2006年11月　『ミクロ人類学の実践―エイジェンシー / ネットワーク・身体』（田中雅一と共編著）世界思想社、466ページ
12　2009年 1 月　『文化人類学事典』（編集委員長）丸善、833ページ
13　2009年 6 月　『日常人類学宣言―生活世界の深層へ/から』世界思想社、352ページ
14　2012年 7 月　『ケニアを知るための55章』（津田みわと共編著）明石書店、376ページ
15　2013年8月　『コリアンディアスポラと東アジア社会』（鄭根植と共編著）京都大学学術出版会、316ページ
16　2014年 3 月　『アフリカ社会を学ぶ人のために』（編著）世界思想社、320ページ
16　2016年 3 月　（野元美佐と共編）『アフリカ潜在力シリーズ第１巻 紛争をおさめる文化―不完全性とブリコラージュの実践』京都大学学術出版会、406ページ
17　2017年 2 月　*African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions*, Gebre Yntiso, Itaru

Ohta and Motoji Matsuda eds., Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon, pp432

18　2018 年 11 月　『改訂新版　新書アフリカ史』（宮本正興と共編著）講談社、784 ページ

19　2020 年 2 月　*The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity*, Yaw Ofosu-Kusi & Motoji Matsuda eds., Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon, pp276

20　2021 年 2 月　（予定）『集合的創造性―コンヴィヴィアルな人間学のために』（編著）世界思想社

21　2021 年 3 月　（予定）『都市・抵抗・共同性―日常的実践の社会人間学』（阿部利洋・井戸聡・大野哲也・野村明宏・松浦雄介と共編著）山代出版印刷部

22　2021 年 3 月　（予定）*African Potentials Series* vol.1-vol.7（シリーズ編集）
Langaa RPCIG,
Bamenda, Cameroon
Endo, E., Ato K. Onoma and M. Neocosmos eds., *Volume 1 African Politics of*
Survival: Extraversion and Informality in the Contemporary World
Yamada, Y., A. Takada and Shose Kessi eds., *Volume 2 Knowledge, Education and Social Structure in Africa*
Ochiai, T., M. Hirano Nomoto and D.E. Agbiboa eds., *Volume 3 People, Predicaments and Potentials in Africa*
Takahashi, M., S. Oyama and Herinjatovo A. Ramiarison, *Volume 4 Development*
and Subsistence in Globalising Africa: Beyond the Dichotomy
Takemura, K. and F. Nyamnjoh eds., *Volume 5 Dynamism in African Languages*
and Literature: Towards Conceptualisation of African Potentials

論文

1　1982 年 10 月　「ナイロビにおける出稼ぎ民居住区の形成過程―その母村と都市コロニーとの関係」『季刊人類学』13 巻 3 号、3-47 ページ

2　1983 年 5 月　「アフリカ都市出稼ぎ民の再部族化現象―ナイロビのマラゴリ人出稼ぎ民の事例から」『アフリカ研究』第 23 号、1-33 ページ

3　1984 年 9 月　「アフリカの都市と農村―ケニアの都市農村関係を理解するために」『国際農林業協力』第 7 巻 2 号、71-77 ページ

4　1984 年 10 月　「浜の開発―村主導の開発をめぐる二つの論理」鳥越皓之・嘉田由紀子編『水と人の環境史』御茶ノ水書房、123-161 ページ

5　1984 年 12 月　“Urbanization and Adaptation: A Reorganization Process of Social Relations among the Maragoli Migrants in their Urban

Colony", Kangemi, Nairobi, Kenya, *African Study Monographs,* vol.5, Centre for African Area Studies, Kyoto University, pp1-48

6　1985 年 2 月　「アーバン・エスニシティ論構築のための一試論」『ソシオロジ』第 29 巻 3 号、33-55 ページ

7　1985 年 12 月　「アフリカ都市における伝統の非連続生」『人文研究』第 37 巻 2 号、大阪市立大学文学部、79-112 ページ

8　1986 年 12 月　「生活環境主義における知識と認識」『人文研究』第 38 巻 11 号、大阪市立大学文学部、713-721 ページ

9　1987 年 10 月　「都市人類学」米山俊直・祖父江孝男・野口隆編『（新版）文化人類学事典』ぎょうせい出版、312-324 ページ

10　1988 年 12 月　「ある一族の移住史―アフリカにおける民族生成の多元的メカニズム」『人文研究』第 40 巻 9 号、大阪市立大学文学部、639-667 ページ

11　1989 年 3 月　「必然から便宜へ―生活環境主義の認識論」鳥越皓之編『環境問題の社会理論』御茶ノ水書房、93-132 ページ

12　1989 年 9 月　「フィールドワーク再考―フィールド理解の非定型化のための一試論」『季刊人類学』20 巻 3 号、4-33 ページ

13　1989 年 10 月　「語りの意味から操りの力へ―西ケニアのフィールドワークから」田邊繁治編『人類学的認識の冒険―イデオロギーとプラクティス』同文館

14　1990 年 2 月　「拘束と創造―アフリカ都市出稼ぎ民形成のダイナミズム：ケニア、マラゴリ人の場合」『歴史学研究』第 612 号、31-43 ページ

15　1990 年 9 月　"A Formation Process of Urban Colony of the Maragoli Migrants in Kangemi, Nairobi", *African Urban Studies* vol.1, ILCAA, pp1-37

16　1990 年 12 月　「伝統の生成、氾濫そして反逆」『人文研究』第 42 巻 6 号、大阪市立大学文学部、31-43 ページ

17　1991 年 1 月　「意味と力の弁証法―マラゴリ人の都市死者祈念儀礼をめぐって」谷泰編『文化を読むーフィールドとテキストのあいだで』人文書院、125-161 ページ

18　1991 年 2 月　「方法としてのフィールドワーク」米山俊直・谷泰編『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社、32-45 ページ

19　1992 年 3 月　"Soft Resistance of the Everyday Life: A Life Strategy of the Maragoli Migrants in Kangemi, Nairobi", *Senri Ethnological Studies* no.31, National Museum of Ethnology, pp1-82

20　1992 年 6 月　「民族再考―近代の人間分節の魔法」『インパクション』インパクト出版会

21　1993 年 2 月　"Urban Tradition as a Creative Process in Africa", Cohen.A.P. & K.Fukui eds., *Humanising the City? Social Contexts of Urban Life at the Turn of the Millennium*, Edinburgh University Press, pp110-126

22　1993年 4 月　「アフリカ社会の形成と展開」杉本尚次・中村泰三編『変動する現代世界のなりたち』晃洋書房、85-100ページ
23　1993年 4 月　「都市と民族形成」（日野舜也と共同執筆）川田順造編『改訂版アフリカ論』日本放送出版、87-100
24　1993年 8 月　「歴史と社会への民衆生活誌的アプローチ」赤阪賢・日野舜也・宮本正興編『アフリカ研究―ひと・ことば・文化』世界思想社、198-209ページ
25　1993年11月　「生きる―ことばと文化」吉田昌夫編『甦るアフリカ』日本貿易振興会、33-49ページ
26　1994年 3 月　「アフリカ都市生活誌序説―アーバンライフはいかに語られるか」福井勝義・井上忠司・祖田修編『文化の地平線』世界思想社、375-392ページ
27　1994年 6 月　「意味化の権力、範型化の抵抗―ケニア、オティエノ裁判のもう一つの構図」『法社会学』46号、79-85ページ
28　1995年 3 月　「人類学における個人、自己、人生 」米山俊直編『現代文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社、186-205ページ
29　1995年 9 月　「構造調整期の都市社会―出稼ぎ民コロニーの分散とUターン現象」『アフリカ研究』第47号、33-49ページ
30　1996年 3 月　“Nostalgic Discourse as Soft Resistance: how the Maragoli migrants in Nairobi romanticize the *yengo*（home）”, *African Urban Studies* vol.4, ILCAA, 1-27ページ
31　1996年 4 月　「比較社会学のフィールドワーク」須藤健一編『文科系研究者のためのフィールドワーク入門』嵯峨野書院、39-46ページ
32　1996年 7 月　「都市と文化変容―周縁都市の可能性」『岩波現代社会学講座　第18巻 都市と都市化の社会学』岩波書店、171-188ページ
33　1996年10月　「民族におけるファクトとフィクション」磯部卓三・片桐雅隆編『フィクションとしての社会―社会学の再構成』世界思想社、184-209ページ
34　1996年10月　「変奏する二つの記憶―韓国人元三菱徴用工被者の戦争の語りから」『インパクション』99号、54-63ページ
35　1996年10月　「「人類学の危機」と戦術的リアリズムの可能性」『社会人類学年報』第22巻、23-48ページ
36　1997年 1 月　「都市のアナーキーと抵抗の文化」『岩波講座文化人類学　第6巻 紛争と政治』岩波書店、95-134ページ
37　1997年 3 月　「ナイロビの住民組織―開発戦略と生活戦略」幡谷則子編『発展途上国の都市住民組織』、アジア経済研究所、27-50ページ
38　1997年 9 月　「実践的文化相対主義考―初期アフリカニストの跳躍」『民族学研究』第62巻2号、205-226ページ
39　1997年12月　「植民地文化における主体性と暴力―西ケニア、マラゴリ社会の経験から」山下晋司・山本真鳥編『植民地主義と文化―人類学のパースペクティブ』新曜社、276-306ページ

40　1998 年 1 月　「国家を実験するアフリカ」『大航海』20 号、78-84 ページ
41　1998 年 2 月　「実践暴力の行方―ケニアと西成の暴動現場から」田中雅一編『暴力の人類学』京都大学学術出版会、251-276 ページ
42　1998 年 3 月　「フィールドワークをしよう・民族誌を書こう」船曳建夫編『文化人類学のすすめ』筑摩書房、152-170 ページ
43　1998 年 3 月　「民族紛争の深層―アフリカの場合」原尻英樹編『世界の民族「民族」形成と近代』放送大学教育振興会、231-253 ページ
44　1998 年 3 月　「民族対立の社会理論―アフリカ的民族形成の可能性」武内進一編『現代アフリカの紛争を理解するために』アジア経済研究所、15-41 ページ
45　1998 年 6 月　「文化・歴史・ナラティブーネグリチュードの彼方の人類学」『現代思想』6 月号、青土社、206-227 ページ
46　1999 年 3 月　「ナイロビにおける住民組織の二つの位相―開発路線と生活路線の相克」幡谷則子編『発展途上国の都市住民組織―その社会開発における役割』アジア経済研究所、193-235 ページ
47　1999 年 3 月　「近代市民社会とアフリカ―アフリカから何を学ぶか」楠瀬佳子・洪炯圭編『ひとの数だけ文化がある―第三世界の多様性を知る』第三書館、3-24 ページ
48　1999 年 5 月　「都市、そして民族の生成」（日野舜也と共著）川田順造編『アフリカ入門』新書館、277-292 ページ
49　1999 年 9 月　「西ケニア山村から見た大英帝国―個人史が世界史と交錯するとき」栗本英世・井野瀬久美恵編『植民地経験―人類学と歴史学からのアプローチ』人文書院、197-220 ページ
50　2000 年 1 月　「日常的民族紛争と超民族化現象―ケニアにおける 1997-98 年の民族間抗争事件から」武内進一編『現代アフリカの紛争―歴史と主体』アジア経済研究所、55-100 ページ
51　2000 年 2 月　「西ケニアの社会福祉―扶助と排除の政治学」仲村優一・一番ヶ瀬康子編『世界の社会福祉 第 11 巻 アフリカ、中南米、スペイン』旬報社、19-42 ページ
52　2000 年 10 月　「共同体の正義と和解―過去の償いはいかにして可能か」『現代思想』28 巻 13 号、122-144 ページ
53　2001 年 3 月　「創発的文化の行方―アフリカの 21 世紀」『大航海』38 号、91-99 ページ
54　2001 年 3 月　“The World of Everyday Life as a Source of Creativity and Resistance in Urban Africa”, Kurimoto. E. ed., *Rewriting Africa: Toward Renaissance or Collapse?*　JCAS Symposium series no. 14, JCAS, pp113-131
55　2001 年 10 月　「文化 / 人類学―文化解体を超えて」杉島敬志編『人類学的実践の再構築ポストコローニアル転回以後』世界思想社、123-151 ページ
56　2001 年 10 月　“A Historical Text of Abawanga in Western Kenya”by Josech

Okwako　compiled and translated by Matsuda Motoji, 嶋田義仁編、科学研究費成果報告書『アフリカ伝統王国の研究 2 アフリカにおける伝統王国の社会変化の比較研究』名古屋大学文学研究科嶋田研究室

57　2001 年 12 月　「植民地的主体形成論のために―植民地支配確立期における西ケニア社会の歴史民族誌」『京都社会学年報』第 9 号、19-37 頁

58　2002 年 3 月　「国勢調査と民族生成―東アフリカ・ケニアのカレンジン現象をてがかりに」 青柳真智子編『国勢調査・法制度に見られる人種・民族分類の比較研究』科学研究費成果報告書、251-266 ページ

59　2002 年 3 月　「和解と語り―南アフリカの真実和解委員会の経験から」小倉充夫編『南部アフリカにおける地域的再編成と人の移動』科学研究費成果報告書、149-159 ページ

60　2002 年 4 月　「創られた王国の彼方に―西ケニア・ワンガ王国史の歴史語りから」山路勝彦・田中雅一編『植民地主義と人類学』関西学院大学出版会、469-489 ページ

61　2002 年 5 月　「個人性の社会理論序説―非西欧社会のセルフ像を通して」『現代社会学フォーラム』世界思想社、33-42 ページ

62　2003 年 3 月　「フィールドワークの窮状を超えて」『社会学評論』53-4（212）号、499-515 ページ

63　2003 年 3 月　「法外世界と日常的実践―南アフリカにおける和解と救済を通して」『法社会学』58 号、15-28 ページ

64　2004 年 2 月　「日常のなかの都市性―あるケニア人一族の 100 年間の都市経験から」関根康正編『〈都市的なるもの〉の現在―文化人類学的考察』東京大学出版会、241-271 ページ

65　2004 年 3 月　「国勢調査と民族生成―ケニア」青柳真智子編『国勢調査の人類学』古今書院、251-266 ページ

66　2004 年 9 月　「変異する共同体」『文化人類学研究』第 69 巻 2 号、247-270 ページ

67　2004 年 12 月　「フィールドワークとリアリティ―東アフリカ都市調査の経験から」『京都社会学年報』第 12 号、1-21 ページ

68　2005 年 2 月　「人種的共同性の再評価のためにー黒人性再創造運動の経験から」竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う―西洋的パラダイムを超えて』人文書院、390-414 ページ

69　2005 年 4 月　「都市性への挑戦―『貧困の文化』から学ぶ」山下晋司編『文化人類学―古典と現代をつなぐ 20 のモデル』弘文堂、191-205 ページ

70　2005 年 6 月　“Recapturing the city: Everyday life Practices of Maragoli migrants in Nairobi”, A. Tanabe ed., *Dislocating Nation-States: Globalization in Asia and Africa ed*. Kyoto University Press/ Trans Pacific Press, pp171-193

71　2005 年 10 月　「土地の正しい所有者は誰か―東アフリカ・マサイ人の土地返還要求運動の事例から」『環境社会学研究』11 号、70-89 ページ

72　2006年 6 月　“Reconciliation and Redress in Post-colonial East Asia: Creativity of Narrative of Suffering”, *New Currents in Asian Studies in/Between National Boundaries*, Kyujanggak Institute for Korean Studies, Seoul National University, pp60-85

73　2006年11月　「セルフの人類学に向けて―遍在する個人性の可能性」田中雅一・松田素二編『ミクロ人類学の実践』世界思想社、380-405ページ

74　2006年　“Overcoming the Predicament of Social Research”, A.Furukawa ed., *Frontiers of Social Research,* Trans Pacific Press, pp1-18

75　2007年 4 月　「過去の傷はいかにして癒されるか―被害を物語る力の可能性」棚瀬孝雄編『市民社会と責任』有斐閣、111-138ページ

76　2007年 3 月　「グローバル化時代の人文学―アフリカからの挑戦」紀平英作編『グローバル化時代の人文学―対話と寛容の知を求めて』（上）、京都大学学術出版会、118-145ページ

77　2007年 8 月　「21世紀世界におけるアフリカの位置―アフリカに学ぶ、社会を癒す知恵」松原正毅編『2010年代　世界の不安、日本の課題』、総合研究開発機構、477-494ページ

78　2007年10月　「苦難の経験は如何に語られるか―あるコンゴ難民のライフストーリーから」真島一郎編『20世紀個体形成の比較研究』平凡社

79　2007年12月　「間身体性の社会理論のために」菅原和孝編『身体資源の人類学』弘文堂、231-259ページ

80　2008年 3 月　「グローバル化時代における共同体の再想像について」『哲学研究』584号、1-35ページ

81　2008年 3 月　「アフリカにおける差別問題」『奈良県立同和問題関係資料センター研究紀要』14号、121-130ページ

82　2008年 4 月　「周辺からの声」内堀基光ら編『文化人類学』放送大学、172-188ページ

83　2009年 1 月　「暴力の舞台としてのストリート―2007-8年ケニア・ポスト選挙暴動を事例として」関根康正編『ストリートの人類学』国立民族学博物館調査報告80、385-406ページ

84　2009年 2 月　「平和のフェティシズム考―文化的フェティシズム批判を超えて」田中雅一編『フェティシズム論の系譜と展望』京都大学学術出版会、241-269ページ

85　2009年 4 月　「アフリカから何が見えるのか」『興亡の世界史20巻　人類はどこへ行くのか』講談社、229-292ページ

86　2009年 6 月　「序　現代世界における人類学の課題」『文化人類学』74巻2号、262-271ページ

87　2010年 3 月　「理不尽な集合暴力はいかにして裁かれるか―2007年ケニア選挙後暴動の軌跡」『アフリカレポート』50号、JETROアジア経済研究所、3-9ページ

88　2010年 3 月　「構造的弱者と共同性―京都市在住朝鮮人のライフヒストリー調査

から考える」グローカル研究叢書1『グローカル化現象のなかの共同体/共同性の生成―グローバル化を飼い慣らす』成城大学民俗学研究所グローカル研究センター、1-24ページ

89　2010年 9 月　“Local Community and Environmental Conservation: 'Think Globally, Act Locally' Reconsidered”, S.Tanabe ed., *Communities of Becoming' in Mainland South East Asia*, pp119-133

90　2011年 1 月　「苦難の自分史を翻訳する術―あるコンゴ難民のライフ・ヒストリーを事例にして」真島一郎編『20世紀〈アフリカ〉の個体形成―南北アメリカ・カリブ・アフリカからの問い』765ページ　平凡社、418-444ページ

91　2011年 5 月　（ed.）*The Roles of Local Knowledge in Globalized Context, Department of Sociology*, Kyoto University pp 106

92　2011年 5 月　“Potentiality of Indigenous Knowledge at the Times of Globalization: From Experiences of Local Communities in Kenya, Nepal, Thai and Japan”（with A. Furukawa）, *The Roles of Local Knowledge in Globalized Context*, Department of Sociology, Kyoto University, pp 7-17

93　2011年 5 月　“Towards Understanding Africa: From Multi-Perspectives”, *The Roles of Local Knowledge in Globalized Context*, Department of Sociology, Kyoto University, pp 89-100

94　2011年 6 月　「海外フィールドワーク」鏡味治也・森山工・橋本和也・関根康正編『フィールドワーカーズハンドブック』世界思想社、87-103ページ

95　2011年 6 月　「理不尽な集合暴力は誰がどのように裁くことができるか―ケニア選挙後暴動の事例から」『フォーラム現代社会学』10号、37-49ページ

96　2012年 5 月　「市場経済に潜り込む生業世界」松井健・野林厚志・名和克郎共編『生業と生産の社会的布置―グローバリゼーションの民族誌のために』岩田書院、365-400ページ

97　2012年11月　“Beyond Romanticization of Community-based Knowledge and Institutions Notes for further discussion”, *Kyoto International Seminar 2012 Re-Creating Communities in a Globalized Setting,* Kyoto University, pp 75-81

98　2013年 3 月　「暴動を予防する身体―ナイロビにおける2007-2008選挙後暴力の事例から」菅原和孝編『身体化の人類学』世界思想社、397-419ページ

99　2013年 6 月　「現代世界における人類学的実践の困難と可能性」『文化人類学』78巻1号、1-25ページ

100　2013年10月　「現代世界の解釈ツールとしての桜井式ライフストーリー法―滋賀県・湖西、湖東の調査から」山田富秋・好井裕明編『語りが拓く地平―ライフストーリーの新展開』せりか書房、171-194ページ

101　2014年 3 月　“2012 Japanese Society of Cultural Anthropology Award Lecture, The Difficulties and Potentials of Anthropological Practice”, *Globalized World Japanese Review of Cultural Anthropology*, vol.14, pp1-29

102　2015年11月　「アフリカ史の可能性」佐藤卓己編『岩波講座現代 5 巻　歴史の揺らぎと再編』岩波書店、175-202 ページ

103　2016年 3 月　「「アフリカ潜在力」の社会・文化的特質」松田素二・野元美佐編『アフリカ潜在力シリーズ第 1 巻 紛争をおさめる文化―不完全性とブリコラージュの実践』京都大学学術出版会、1-28 ページ

104　2016年 3 月　「紛争予防のための潜在力―現代ケニアのコミュニティ・ポリシングの事例から」、松田素二･野元美佐編『アフリカ潜在力シリーズ第 1 巻 紛争をおさめる文化―不完全性とブリコラージュの実践』京都大学学術出版会、237-275 ページ

105　2016年 9 月　translated by Nicole G. Albert,“Communauté et violence de rue à Nairobi”, *Diogène* no. 251-252, Presses Universitaires de France, pp 103-117

106　2017年 3 月　“Introduction: Achieving Peace and Coexistence through African Potentials”, （with Gebre Yntiso, Itaru Ohta）, Gebre Yntiso, Itaru Ohta and Motoji Matsuda eds., *African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions*, LANGAA, Bwea, pp3-37

107　2017年 3 月　“Everyday Knowledge and Practices to Prevent Conflict: How Community Policing domesticated in Contemporary Kenya”, Gebre Yntiso, Itaru Ohta and Motoji Matsuda eds., *African Virtues in the Pursuit of Conviviality: Exploring Local Solutions in Light of Global Prescriptions*, LANGAA, Bwea, pp275-308

108　2017年 3 月　“Creativity of Narrative of Suffering of the Korean A-Bomb Survivors: How Reconciliation and Redress could be achieved?” 『京都社会学年報』24 号、1-16 ページ

109　2017年 5 月　「異なるものへの不寛容はいかにして乗り越えられるのかーレヴィ＝ストロースを手掛かりにして」渡辺公三・石田智恵・冨田敬大編『異貌の同時代　人類・学・の外へ』以文社、495-524 ページ

110　2017年11月　“Two Types of Community Organization in Urban Africa”, Italo Pardo and Giuliana B. Prato　eds., *The Palgrave Handbook of Urban Ethnography*, Palgrave Macmillan, pp369-385

111　2018年 2 月　“A Genesis of Street Communality: With Special Reference to the Political Culture of Street Violence in Nairobi”, *Diogenes*（Online）, Sage Publications, pp1-10.

112　2018年 3 月　「探検・科学・異文化理解―ヘディンの軌跡を通して考える」田

中和子編『探検家ヘディンと京都大学―残された 60 枚の模写が語るもの』京都大学学術出版会、205-216 ページ

113　2018 年 11 月　「改訂新版にあたって」（宮本正興と共著 14-22）宮本正興と共編著『改訂新版　新書アフリカ史』講談社、776 ページ
第一章　アフリカ史の舞台
1――人と自然 、32-38
第一〇章　ヨーロッパの来襲、307-333
第一一章　植民地支配の方程式
1――サバンナのコロニー〈イギリス領東アフリカ〉、334-344
第一三章　アフリカ人の主体性と抵抗
1――抵抗の選択肢、432-439
2――伝統の反乱、440-447
第一六章　20 世紀末のアフリカ
3――近代化の矛盾、593-607
第一八章　21 世紀のアフリカ
1――アフリカ潜在力：紛争解決のためのもう一つの回路、674-687
3 ――人類史のなかのアフリカ（宮本正興と共著）、707-717

114　2019 年 1 月　「アフリカから何が見えるのか」『興亡の世界史 20 巻　人類はどこへ行くのか』（福井憲彦、杉山正明などと共著）講談社学術文庫　（88 の改定再録版）239-308 ページ

115　2019 年 3 月　“Exploration, Science and Understanding Others: Thinking through Hedin's Trajectory”, Kazuko Tanaka ed., *The Explorer Sven Hedin and Kyoto University*, Kyoto University Press/ Trans-Pacific Press, pp185-200

116　2019 年 3 月　「原爆、植民地支配、戦後放置―幾重もの「トラウマ」を生きる在韓被爆者」田中雅一編『トラウマ研究』第 2 巻、京都大学学術出版会、419-443 ページ

117　2020 年 2 月　“Introduction: The Contemporary World and African Potentials”, Yaw Ofosu-Kusi and Motoji Matsuda eds., *The Challenge of African Potentials: Conviviality, informality and Futurity*, Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon, pp1-12

118　2020 年 2 月　“Conclusion: Creativity, Collectivity and Conviviality: Towards African Potentials”, Yaw Ofosu-Kusi and Motoji Matsuda eds., *The Challenge of African Potentials: Conviviality, Informality and Futurity*, Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon, pp229-254

119　2020 年 5 月　「学問と社会のコンヴィヴィアルな関係―「社会学は死んだか」シンポから考えたこと」『フォーラム現代社会学』第 19 号、83-91 ページ

120　2021 年 1 月　「政治」春日直樹・竹沢尚一郎編『文化人類学のエッセンス―人類学で世界をみる / 変える』有斐閣

121　2021 年 2 月　（予定）「現代世界における生の技法／哲学としての集合的創造性

—コンヴィヴィアルな人間学のために」松田素二編『集合的創造性——コンヴィヴィアルな人間学のために』世界思想社

122　2021年 3 月　（予定）「都市、抵抗、共同性について思うこと—40年間のフィールドワークの軌跡から」松田素二・阿部利洋・井戸聡・大野哲也・野村明宏・松浦雄介編『都市、抵抗、生活世界—日常実践の社会人間学』山代出版印刷部

123　2021年 3 月　（予定）“Subsistence Living Within the Market Economy: African Potentials for Survival in a Western Kenyan Mountain Village“
Ochiai,T., M.Hirano-Nomoto & D.E.Agbiboa eds., *Predicaments and Potentials in Africa,* Convivial Perspective on Humanities Series vol.3, Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon,

そのほか

1　1979年 3 月　「美和地区—溝口二区　盆地的小宇宙」米山俊直編『農村集落構造分析調査報告書』農政調査委員会

2　1982年 9 月　「素早く殺して（ナイロビ大学留学報告）」『本』講談社

3　1984年 3 月　「都市化の諸問題」宮本正興・岡倉登志編『アフリカ世界』世界思想社

4　1984年11月　“Shadow of the Bomb Remain”, *INSIDE ASIA*, London

5　1984年12月　「二つのボランタリー・アソーシエーション」『日本都市社会学会年報』2号、日本都市社会学会

6　1985年 8 月　「都市人類学、認識人類学、文化変容の項執筆」『世界歴史文化事典』教育出版センター

7　1985年12月　「周縁からのひと（り）ごと」『日本都市社会学会年報』3号、日本都市社会学会

8　1986年 3 月　「都市の祭りとコミュニティイベント」吉井藤重郎編『阿波踊りと市民意識』（科研費報告書）大阪市立大学社会学研究室

9　1986年10月　「異文化の衝突と交流」『金沢大学公開講座テキスト』金沢大学教育開放センター

10　1987年 2 月　「崩壊か創造か」『国際協力』2月号、国際協力事業団

11　1987年 4 月　「アフリカ社会学—現状と課題」中久郎・梶谷素久編『社会学グローバル』御茶ノ水書房

12　1987年 7 月　「書評『アフリカ—民族学的研究」（和田正平編）」『週刊読書人』

13　1987年 9 月　「万能の解釈道具　部族のうそ」他9篇、米山俊直編『アフリカ人間読本』河出書房新社

14　1988年10月　翻訳「植民地支配の社会的影響（A.E. アフィボ著）」『ユネスコアフリカの歴史』第7巻、同朋舎出版

15　1989年 6 月　“Book Review: *Cities, Societies and Social Perceptions* by J. C. Mitchell”, *THE DEVELOPING ECONOMIES* vol.27-3 Institute of Developing Economies, Tokyo

16　1990年 2 月　「生成する都市性」『イスラムの都市性』研究報告17号
17　1990年 7 月　翻訳「アフリカ社会における歴史の地位」（キーゼルボ著）（竹村景子と共訳）『ユネスコアフリカの歴史』第1巻、同朋舎出版
18　1990年 7 月　翻訳「歴史研究における学際的方法」（キーゼルボ著）（大谷雅子と共訳）『ユネスコアフリカの歴史』第1巻、同朋舎出版
19　1990年 7 月　「都市における「伝統」氾濫のとらえかた」『イスラムの都市性』研究報告76号
20　1992年 5 月　「都市のエスニシティ」『事典イスラームの都市性』板垣雄三編、亜紀書房
21　1992年10月　「書評『マウマウ戦争の真実―埋もれたケニア独立前史」（マイナ・ワ・キニャティ著）』『インパクション』77号、インパクト出版会
22　1993年 2 月　「アフリカの社会学（英語圏）」『新社会学事典』有斐閣
23　1993年 9 月　“Book Review: *Life Ethics of the Gusii, Western Kenya* by M. Matsuzono” *NILO-ETHIOPIAN STUDIES* vol.1
24　1994年 6 月　「都市アフリカ人の生活戦略」梅棹忠夫編『地球を舞台にーボーダーレス時代をよむ』（梅棹忠夫との対談）日本放送出版協会
25　1995年 7 月　「アフリカの諸問題を考えるアフリカ人作家との対話」『月刊アフリカ』7月号、日本アフリカ協会、30－32ページ
26　1995年11月　「なぜアフリカ人は「族」と呼ばれるのか」『関西・南部アフリカネットワーク通信』第5号、2－12ページ
27　1995年12月　「ルワンダ愛国戦線」、「マウマウ戦争」、「イディ・アミン」『世界民族問題事典』梅棹忠夫監修、平凡社
28　1996年 3 月　「書評『最後の狩猟採集民」（田中二郎著）」『アフリカ研究』第48号
29　1996年 6 月　「ナイロビ―出稼ぎ民の町から」『国際協力』6月号、国際協力事業団、pp6-9
30　1996年 8 月　「京都市在住韓国・朝鮮人の生活史」『京都市在住韓国・朝鮮人生活史・意識調査報告書（抜粋版）』京都市、21-32ページ
31　1996年10月　「書評にこたえて」『ソシオロジ』127号、115-117ページ
32　1997年 3 月　「内外人不平等の系譜―日本の被者行政と韓国人被者」（市場淳子と共著）『研究紀要』第2号、世界人権問題研究センター、145-166ページ
33　1997年 3 月　「結果分析」（中山ちなみ、村上浩介と共著）『京都市在住外国人意識調査・第一次報告書』世界人権問題研究センター、32-66ページ
34　1997年 3 月　『地域にまなぶ　愛知県東加茂郡旭町から』京都大学文学部社会学研究室
35　1997年 6 月　「韓国人被者運動と戦後補償問題」『世界人権問題研究センター年報』1996年度、世界人権問題研究センター、77-79ページ
36　1997年 7 月　「アフリカ社会のオモテとウラ」『本』講談社、18-20ページ
37　1997年 9 月　「第4章 結果分析 6節 日本社会の差別と偏見」pp77-84、「第4章

結果分析　10節自由解答欄」pp109-113『京都市在住外国人意識・実態調査報告書・正編』京都市国際化推進室

38　1997年 9 月　「書評『マレー農村の20年」（坪内良博著）」『人環フォーラム』第3号、京都大学大学院人間・環境学研究科、64ページ

39　1998年 3 月　『地域にまなぶ　京都府加佐郡大江町から』京都大学文学部社会学研究室

40　1999年 3 月　「言語ジャーナル51　ケニア」『言語』3月号、大修館書店、94-95ページ

41　1999年 3 月　『地域にまなぶ　第3集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室

42　1999年11月　「フィールドワークに未来はあるか」『ソシオロジ』第44巻2号、社会学研究会、115-118ページ

43　1999年11月　The Everyday Life World as a Source of Creativity and Resistance in Urban Africa, presented to Monbusho International Symposium of Rewriting *Africa: Towards a Renaissance or Collapse*, held at Japan Centre for Area Studies in Osaka, Nov.16-19 pp.1-17

44　2000年 2 月　「書評・今号のこの一冊『アフリカの女性史―ケニア独立闘争とキクユ社会』（コーラ・プレスリー著、富永智津子訳、未来社、1999年）」、『JANESニューズレター』日本ナイルエチオピア学会、pp30-31

45　2000年 3 月　「創酒」月刊『酒文化』4月号（第10巻3号）、酒文化研究所、7-8ページ

46　2000年 3 月　「境界の自由、越境の不自由」『新曜社総合図書目録』30周年特別号、新曜社、59-61ページ

47　2000年 3 月　『地域にまなぶ　第4集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室

48　2000年 5 月　「下から見るアフリカの二〇世紀―あるマラゴリ人一族の100年を振り返る」少年ケニアの友・東京支部編『アフリカを知る』スリーエーネットワーク、55-67ページ

49　2000年 6 月　「アフリカにおける民族問題の捉え方―ケニア社会の事例から」NIRA政策研究VOL.13-NO.6、28-32ページ

50　2001年 1 月　「アフリカと文化人類学」『ワールドトレンド』第64号、8-11ページ

51　2001年 3 月　「アフリカの毒」選書メチエ編集部編『学問はおもしろい―＜知の人生＞へどう出発したか』講談社選書メチエ、74-85ページ

52　2001年 3 月　「アフリカの光と影―忘れられた歴史」『NHK教育セミナー　歴史でみる世界』日本放送出版協会、38-39ページ

53　2001年 3 月　“ethnogenesis”, N. Smelser and P. Baltes eds., *THE INTERNATIONAL ENCYCROPEDIA OF SOCIAL & BEHAVIORAL SCIENCE* , 26 Elsevier Science: Amsterdam

54　2001年 3 月　『地域にまなぶ　第5集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
55　2001年 4 月　「法―外世界の面白さ」『日本法社会学会学会報』第58号、1ページ
56　2001年10月　「書評にこたえて」『ソシオロジ』46巻2号、129-130ページ
57　2001年12月　「アフリカ研究と社会学」『アフリカ研究』59号、27-30ページ
58　2001年12月　「書評『ムチョラージ』(坂田泉著)」『アフリカ研究』59号、日本アフリカ学会
59　2002年 2 月　「被差別体験とその対処」『京都市人権問題に関する意識調査報告書』世界人権問題研究センター、63-72ページ
60　2002年 3 月　「アフリカと植民地支配―ヨーロッパ近代との出会い」『歴史でみる世界　2002年度』日本放送出版協会、39-40ページ
61　2002年 3 月　「アフリカから現代世界をみる」『高崎経済大学論集』44巻4号、169-172ページ
62　2002年 3 月　『地域にまなぶ　第6集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
63　2003年 3 月　「アフリカのフィールドワーク―人文学のもう一つの方法」京都大学文学部編『知のたのしみ学のよろこび』岩波書店、195-200ページ
64　2003年 3 月　「アフリカと植民地支配―ヨーロッパ近代との出会い」『歴史でみる世界　2003年度』日本放送出版協会、38-39ページ
65　2003年 3 月　『地域にまなぶ　第7集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
66　2003年 3 月　科学研究費補助金報告書『地域環境保全システムと環境政策の人類学的研究』松田素二編　京都大学文学部社会学研究室
67　2003年 9 月　「総合コメント」『国際交流と地域研究』長島信弘編　ブックシリーズアクタⅠ、中部大学、60-65ページ
68　2004年 3 月　「人種的共同性の再評価のためにー黒人性再創造運動の経験から」竹沢泰子編『科研報告書「人種」の概念と実在性をめぐる学際的基礎研究』竹沢泰子編、97-110ページ
69　2004年 3 月　『地域にまなぶ　第8集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
70　2004年 4 月　「21世紀に積み残された在韓被爆者問題」『グローブ』世界人権問題研究センター、18-19ページ
71　2004年 8 月　「資源人類学プロジェクトにおける研究の方向性」『資源の分配と共有に関する人類学的総合領域の構築・中間報告書』「資源人類学」総括班345-47ページ
72　2004年 9 月　「人類学的知の想像力再び　書評『アフリカの声』(川田順造著)」『読書新聞』9月号
73　2005年 3 月　『地域にまなぶ　第9集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室

74　2005年 3 月　「石川報告へのコメント」『空間の行動文化学』京都大学大学院文学研究科21世紀COEプログラム、115-120ページ
75　2005年 4 月　「アフリカのイスラーム化と諸王国の交流」「ヨーロッパによる植民地支配」「困難と苦悩の先に」『NHK高校講座　世界史』40-41、72-73、88-89ページ
76　2005年12月　「世代を継いでライフヒストリーを聞き取る―アフリカ調査の経験から」桜井厚・小林多寿子編『ライフストーリー・インタビュー質的調査入門』せりか書房、202-210ページ
77　2006年 2 月　「フィールドワーク型調査と社会学教育」『社会学者は誰に何を教えどんな人を創っていくのか』科学研究費報告書、社会学教育研究会、第1分冊99-106ページ
78　2006年 3 月　『地域に学ぶ　第10集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室、関西学院大学古川研究室
79　2006年 3 月　『生活世界の環境倫理と環境政策に関する人類学的研究』科学研究費報告書、京都大学社会学研究室
80　2006年 9 月　「この本のできるまで、あとがきに代えて」『米山俊直の仕事　人、ひとにあう―むらの未来と世界の未来』人文書館
81　2008年 2 月　「システムに依存しないアフリカから学ぶ」『ビッグイッシュー日本版』88号16-18ページ
82　2008年12月　「西ケニアの「ルーラル・サービス」からみえる地平―世界システムの構造的変容と民族誌的現在の解明に向けて」『民博通信』2008 No.123
83　2009年 1 月　「移住と移動」など『文化人類学事典』（編集委員長）丸善、833ページ
84　2009年 2 月　「書評『燃えるジンバブウェ―南部アフリカにおける「コローニアル」・「ポストコローニアル」経験』（吉國恒雄著）」週刊読書新聞2906号
85　2009年 3 月　書評『互助社会論―ユイ、モヤイ、テヅダイの民俗社会学』（恩田守雄著）」『社会学評論』59号4巻、821-822ページ
86　2009年 3 月　「アフリカ・スキーマを超えて」『本』3月号、講談社
87　2009年 3 月　「「希望の大陸」のゆくえ」（座談会）『地域研究』vol.9-1、昭和堂、22-45ページ
88　2009年 3 月　『地域にまなぶ　第11集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
89　2009年 8 月　「世界の現在―アフリカからの視点」『小日本』第5号、坂の上の雲ミュージアム、12-14ページ
90　2010年 2 月　「反人種主義という困難―『人種と歴史』を読み直す」『KAWADE道の手帖　レヴィ＝ストロース　入門のために　神話の彼方へ』河出書房新社、135-139ページ
91　2010年 3 月　『地域にまなぶ　第12集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室

92　2010年 8 月　「宮本常一『民俗学の旅』」小林多寿子編『ライフストーリー・ガイドブックひとがひとに会うために』嵯峨野書院、6-9ページ
93　2011年 3 月　『地域にまなぶ　第13集　三重県東紀州地域から』京都大学文学部社会学研究室
94　2011年 4 月　「二種類の真実　現代アフリカ社会の紛争と和解から」『世界思想』38号、5-8ページ
95　2011年 9 月　「アフリカ系の人びとのための国際年にあたって考えること」『ヒューマンライツ』283号、部落解放・人権研究所
96　2011年10月　「豊中のすごい人」『豊中リレーエッセー:ゆめ･まち･ひと』豊中市、81ページ
97　2012年 3 月　『地域に学ぶ　第13集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室
98　2012年 9 月　「表紙写真でめぐる旅（13）　ムトワンブ」『地理・地図資料　2012年度2学期1号』帝国書院、2ページ
99　2012年12月　「タブー」「習慣」「カニバリズム」「穢れ」「文化とパーソナリティ」「世界観」　レヴィ＝ブリュール　大澤　真幸・吉見　俊哉・鷲田　清一共編　『現代社会学事典』弘文堂
100　2012年12月　「ムンギキ」井上順孝編『世界宗教百科事典』丸善
101　2013年 3 月　『地域に学ぶ　第14集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室
102　2013年 7 月　「地域研究的想像力に向けて―アフリカ潜在力の視点」『学術の動向』7月号、62-66ページ
103　2013年12月　「オゴット」「キゼルボ」「デヴィッドソン」「ニアネ」「マズルイ」「ムボウ」「マインホフ」などの項目執筆『岩波世界人名大辞典』岩波書店
104　2014年 3 月　『地域に学ぶ　第15集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室
105　2014年 6 月　「文化人類学総説」アフリカ学会編『アフリカ学事典』昭和堂、156-167ページ
106　2014年 7 月　「民主化･自由化と紛争」「民族紛争は民族が原因か」「アンクレーブ（エンクレーブ）」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』丸善
107　2015年 3 月　『地域に学ぶ　第16集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室
108　2015年 9 月　「国際化対応における人類学者の「ことば」と「文法」」『文化人類学』80巻2号、278-282ページ
109　2016年 3 月　『地域に学ぶ　第17集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室
110　2016年 3 月　「フロンティアとしてのアフリカ、異種結節装置としてのコンヴィヴィアリティ―不完全性の社会理論に向けて」フランシス・ニャムンジョ（訳：楠和樹・松田素二）松田素二・野元美佐編『アフ

リカ潜在力シリーズ第1巻 紛争をおさめる文化―不完全性とブリコラージュの実践』京都大学学術出版会、311-347ページ

111　2017年 3 月　“Opening Remarks from the President”, *Japanese Review of Cultural Anthropology,* vol.17-2, pp27-28

112　2017年 3 月　『地域に学ぶ　第18集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室

113　2017年11月　「スワヒリの暦」中牧弘允編『世界暦百科事典』丸善

114　2017年11月　「個の力、組織の力そしてマスの力」『月刊みんぱく』第41巻第11号通巻第482号

115　2017年11月　Opening Remarks for the 7th African Potentials Forum at Rhodes University, South Africa,

116　2018年 3 月　“Opening Remarks from the President”, *Japanese Review of Cultural Anthropology,* vol.18-2, pp79-80

118　2018年 3 月　『地域に学ぶ　第19集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室

119　2018年 9 月　New Universalities and African Potentials: Alternative Methods for Addressing Human Security, The 4th World Social Science Forum, September 28, 2018

120　2018年11月　「「京大文学部らしさ」を考える」『以文』61号、3-5ページ

121　2019年 3 月　「アフリカにおける文化触変論の適用可能性とモデル修正の試み」日本国際文化学会年報『インターカルチュラル』第17号、134-136ページ

122　2019年 3 月　『地域に学ぶ　第20集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室

123　2019年 4 月　“Legitimacy in Conviviality— Learning from Legitimacy: Ethnographic and Theoretical Insights”, I. Pardo and G. B. Prato eds., *Urbanities*, Vol. 9・Supplement 2・April 2019 On Legitimacy: Multidisciplinary Reflections pp83-86

124　2019年 5 月　「書評『福音を説くウィッチ―ウガンダ・パドラにおける「災因論」の民族誌』（梅屋潔著）」『フォーラム現代社会学』第18巻、167-170ページ

125　2019年11月　「「変化」のなかの以文会」『以文』62号、3-5ページ

126　2020年 3 月　『地域に学ぶ　第21集　三重県東紀州地域から』京都大学社会学研究室

127　2020年11月　「巻頭言　関与志向のフィールドワーカーの関門」『理論と動態』13号

128　2021年 3 月　（予定）「アフリカの都市的世界」佐土原聡編集代表『都市科学事典』春風社、198-199ページ

129　2021年 3 月　（予定）“Series Preface African Potentials for Convivial World-Making”, *Convivial Perspective on Humanities Series*, Langaa RPCIG, Bamenda, Cameroon